

安田瓦の歴史

安田瓦は天保年間(1830~1844)から生産されたと伝えられ、一般商品として生産されたのは弘化4年(1847)からです。明治になってからは各地師団の増設に伴う兵舎の増改築が活発となり、弘前、旭川師団や新発田兵営の屋根工事に用いられるなど、安田瓦の真価が各地に認められ、官庁、学校等の公共物の需要もあって広く普及してきました。また、品質においても強度や耐寒性に優れ、味わい深い鉄色の瓦は一般住宅はもとより、神社・仏閣の屋根を飾るに相応しい瓦として評価を得て、弥彦神社の勅使館・絵馬殿をはじめ、新潟市の旧県会議事堂・旧税関や北方文化博物館、近年では新潟県知事公舎など由緒ある建物の屋根を彩っています。安田瓦は需要の拡大とともに、生産体制も飛躍的な進歩を遂げ、大正時代までの家内工場での手作りから逐次機械化しながら現在は最新鋭の設備のもとで生産工程の省力化を図り、消費ニーズに即した高品質化と量産体制が確立されています。



119年間風雪に耐えた、安田八幡宮



歴史の重みを感じる米蔵、酒田市山居倉庫



新潟県知事公舎



安田瓦で復元された、会津鶴ヶ城



経の巻鬼瓦

1716年~1864年

- 天保年間(1830~44)
越前敦賀在の瓦師、千野半造、安田の庵地付近の土が瓦製造に適していることを同地の碓也長左衛門に伝え瓦づくりを勧めた。安政年間(1854~59)とする説も有る。
- 天保12年(1841)
1月、保田町の伝左衛門、与五左衛門の両人が上野林(旧安田町)で瓦焼の試渡世(試し営業)を役所に願ひ出る。(許可願いが現存する)
- 弘化4年(1847)
千野半造から製法を伝授された碓屋長左衛門は山崎(旧笹神村)から辰二郎[通称「たっつあ」]を招き、庚申堂付近の林を切り拓いて三州式坊主窯を築いた。築窯当時は備中紅殻釉薬を用いた赤褐色の瓦を生産したとされる。(これより地元では、碓屋(金子)長左衛門を安田瓦の祖とする説が有力である)
- 文久元年(1861)
漆山文吉、碓屋長左衛門へ弟子入りし、元治元年(1864)に独立、瓦製造を開始する。(同地には既に3窯元ありと言う)
- 年不詳
瓦職人元吉(佐藤)宮下(旧笹神村)の田中窯(肥田窯)から独立し庵地に工場をつくる。

明治

- 明治6年(1873)
漆山文吉、奥羽旅行の際持ち帰った鳥海山麓の粘土によって釉薬実験。鉄色の発色成功する。
- 明治15年頃(1882頃)
竹巻清吉、萩野啓五郎、菅井伝七、小林善次郎、志田米吉、金子九一郎ら、坊主窯(だるま窯)を築き、窯元となる。
- 明治18年(1885)
3月~5月、漆山文吉、碓屋長左衛門(金子)等、能登国羽咋郡中沼村(現・石川県羽咋市高松町)により瓦師、北惣吉を招き、登窯(二度焼き)を築く。
- 明治29~31年頃(1896~1988)
漆山文吉、弘前師団兵営の屋根瓦の供給・施工を山崎(旧笹神村)の石黒林三郎と共同で請け負う。

大正

- 大正5年(1916)
この頃、北蒲原郡役所が発行した「新潟県北蒲原郡是」には安田村の瓦製造戸数22、産出数量13,000坪、23,400円と見える。
- 大正9年(1920)
4月、動力線引かれる。漆山文吉、村山久吾ら電動土鍊機、粉碎機を導入。機械化の先鞭をつける。

昭和

- 昭和9年(1934)
10月、安田瓦工業協同組合設立総会を安田村役場で挙行。「組合設立許可 昭和10年(1935)6月16日付け」
- 昭和29年(1954)
安田瓦協同組合、共同施設燃成窯(塩焼瓦)を完成する。
- 昭和40年(1965)
安田瓦生産拡大のため、平地窯、自動製瓦機、パワーシャベルの導入が進む。
- 昭和42年(1967)
新潟博覧会に町特産物(安田瓦、庵地焼、赤坂焼)を出品する。
- 昭和43年(1968)
庵地の瓦工業地帯の一角に、日産3万枚の生産能力を誇る安田瓦協同組合土鍊工業が完成し、操業を開始する。
- 昭和52年(1977)
安田瓦でトンネルキルン(トンネル窯)の導入が図られる。
- 昭和56年(1981)
安田瓦協同組合の状況・組合員14社(従業員 男154人 女111人) 生産量(月産 1,437,000枚)

平成

- 平成15年(2003)
古瓦処理のため、屋根工事業者等関係団体と連携し、安田古瓦リサイクル協同組合を設立する。
- 平成19年(2007)
「安田瓦」地域団体商標登録許可(登録 第5043343号)を取得する。
- 平成23年(2011)
会津若松市、鶴ヶ城の屋根が安田瓦で復元される。社会資本整備総合交付金事業により「やすだ瓦ロード」が整備される。
- 平成23年8月現在、合併・協業化により瓦窯元は3社となっている。

やすだ瓦 ロードマップ

Yasuda Tiles Roadmap 安田瓦路图

瓦アートを訪ねて

「安田瓦」は、江戸時代から続く歴史を持ち、雪国の厳しい気候に適応した高品質な瓦として知られています。「やすだ瓦ロード」は、瓦の生産工場が立ち並ぶ保田(やすだ)地区に、訪れた人が瓦の装飾を楽しみながら散策できる観光スポットとして国土交通省が所管する社会資本整備総合交付金事業によって平成二十二年度に整備されました。一万枚に及ぶ瓦の装飾と、風情あるレンガ煙突の街並みを是非ご覧ください。



阿賀野市 商工観光課

Agano City Council, Commerce, Industry & Tourism Division
阿賀野市 商工観光課

〒959-2092 新潟県阿賀野市岡山町10番15号 TEL0250-62-2510 FAX0250-61-2037
URL <http://www.city.agano.niigata.jp> E-mail syokokanko@city.agano.niigata.jp

ごゆっくりどうぞ



やすだ瓦ロード案内図



1 擁壁 瓦飾り
Retaining wall Decorative tiling 挡土墙 瓦饰

無機質なコンクリート擁壁を温かみのある瓦擁壁に改良しました。

2 全国瓦産地案内図
Map of tile production regions in Japan 全国瓦产地导游图

全国の粘土瓦産地を紹介しています。(現在生産されていない地域も含まれています)

3 煉瓦煙突
Brick chimney 砖烟囱

瓦のまちのランドマークで、今では数少ないレンガ煙突を保存しています。

4 瓦飾りバス停
Bus stop with decorative tile 瓦饰公交站

瓦のまちに相応しいバスの待合所を作りました。

5 瓦庭園
Tile garden 瓦庭園

「だしの風」をイメージした装飾の塀と大きな鬼を配した瓦の庭園です。

6 さんかく広場
Sankaku Plaza 三角广场

瓦ロードの中心に位置する新しいシンボルタワーの鬼がまちを見守っています。

7 ふれあいピット
Fureai Pit 小憩处

瓦ロードの始発であり終着でもある、やすらぎの場所です。モニュメントのカエルが印象的です。

8 安田瓦の歴史解説板 鬼瓦の展示
Explanatory guide board to the history of Yasuda Tiles Exhibition of Onigawara (ogre tiles) 善瓦展示

80年以上前の鬼瓦を展示しています。

みどころ

- ① 擁壁 瓦飾り
- ② 全国瓦産地案内図
- ③ 煉瓦煙突
- ④ 瓦飾りバス停
- ⑤ 瓦庭園
- ⑥ さんかく広場
- ⑦ ふれあいピット
- ⑧ 安田瓦の歴史解説板 鬼瓦の展示

※注意しましょう ●道路の横断は車に注意 ●お子さんは手をつないで ●ゴミは持ち帰りましょう

阿賀野市 周辺マップ

見どころたくさん
阿賀野市!
遊びに来てね!

